



こぶし

令和元年11月29日

第9号

支笏湖小学校

校長 小川 亮男

令和元年度 学校重点教育目標 『実践力（できる）へとつながる学校教育活動の推進』

主体的で能動的な深い学び……

校長 小川 亮男

小雪も過ぎ、いたずらのようにあたりを白くする日が多くなってきました。北風も強くなり、寒林も目立ち、一層寒さが身にしみます。あと一月もすると、新しい時代の幕開けを象徴してきた令和元年が終わることとなります。



11月22日学校駐車場に現れたエゾリス
～ブログより

さて、時々刻々とめまぐるしく変わりゆく現代において、今、教育界も様々に揺れ動いています。大学入試に関わり、右往左往しているニュースが巷を騒がせています。大学入試制度が変わると、それに合わせて高校の教育が変わります。そして、それに対応できるように小中学校の教育が変わろうとしています。これが、これまでPTCA 全体会や参観日の折にお話ししてきた、小学校で来年4月から始まる「新しい学習指導要領」です。

最近、世の中の流れや、動向を見るにつけ、これまでの手法が通用しなくなってきたように思えます。少し前から、ビジネス界では、「中長期および短期の計画を立て、一年ごとに検証する」という、これまでのモデルでは対応できない世の中となってきたようです。何かある度いちいち集まって会議をせず、責任者の専任で決断しすぐに実行する。また、途中であっても必要なら方針を転換する。そのために、これに即した行動がとれる人材が求められるようになってきています。

「何かあったとき、それを解決するためのスケジュールを立て、会議をして同意を得てから実行する」というこれまでのスタイルだと、スケジュールを立て会議をしているうちに他に追い抜かれる可能性があるからです。アイデア、発想、思いつきは、自分一人だけと思いがちですが、実は同じことを多くの人が思いつきます。ものにするかしないかは、「すぐに動くか、完全な計画を立ててから動くか、あきらめるか。」の違いにあるようです。

文部科学省（新学習指導要領）

指導軽視の風潮を改め、基礎基本の徹底、家庭学習を含む学習技能の習得の促進を図るとともに、その上にたった問題解決学習、総合的な学習の時間の充実を図ること。 →学び方の学習（以前からあった）

実際の世の中は、試行錯誤の連続で、これまでの知識や経験を総動員させて問題を解決するという泥臭さがあります。そして、ここで大切なのが、「考えているだけでは何も先に進まない」ということ。さらにおちいりがちなのが、さらに先を考えてしまい動けなくなってしまうこと。だからこそ大事なのは、やってみること。他者の協力を得ること。その主体性であり、コミュニケーション力が、これからの時代に必要な能力だということ。主体的で能動的な深い学び、そのベースがコミュニケーション力です。

世界的に有名な実業家 伊藤穰一氏（元マサチューセッツ工科大学教授・元MITメディアラボ所長）

は、ナウイストという考え方を打ち出しています。→今を見て、今を解決、引き出す力
→「教育より学び」という考え方が深く心に刻まれています。私にとって教育とは与えてもらうもので、学びとは自分でするものです。偏見かもしれませんが、教育は外に出る前に百科事典を暗記させようとしているように見えます。しかし、今や携帯にはWikipediaがあります。教育ではどこかの山で1人、HBの鉛筆1本だけで問題解決することが前提とされているようですが、実際には私たちは常につながっています。いつでも仲間と連絡が取れて、必要ならWikipediaで調べられることもできるのです。学ばなければならないのは学び方なのです。